

施策評価シート

【施策の概要】

		登録者(課長)名【1】	環境保全課長 田中 政治	
		主管課(関係課)【2】	環境保全課(管財課)	
施策名【3】		分野【4】	まちづくりの方向性【5】	
環2-3 生活環境の維持		持続可能な環境に配慮した社会を確立するために	環境にやさしいまちづくり	
概要	施策全体の課題【6】		施策実現へむけたキーワード【7】	施策の目標【8】
	公害問題は、国や都による発生源対策が進み、対象物質の多くは環境基準を達成し改善していますが、新たに注目された公害原因物質による公害の発生もみられます。本市では、大気汚染や河川の水質については定期的なモニタリングを行っており、発生状況をできるだけ早く把握することによって、早期の対策を行うように努めています。公害の未然防止は引き続き重要な課題であり、その対策については、国、東京都、近隣自治体と連携して取り組む必要があります。今後は、引き続き市内におけるモニタリング調査など地域環境を継続的に監視し、万一公害問題が生じた場合には、早期に対策に取り組むことが求められています。		◆公害原因物質の対策 ◆低公害車(※3)、電気自動車などの普及促進 ◆市民、事業者、行政の環境意識啓発	自然や市民生活を守るため、公害のない環境づくりをめざします。
	留意すべき点(都などの制度の変化・その他制約条件・社会環境の変化)【9】			
◇都民の健康と安全を確保する環境に関する条例(東京都)の一部改正があり、騒音の規制基準の適用除外が示されました。				
事業群	事業群名【10】		事業群の施策上の位置づけ【11】	
	1	大気汚染などの公害の防止に取り組みます	低公害車導入促進などによる大気汚染の防止	

【施策の成果】

			年度	24	25	26	27	28	29
成果指標【12】	指標1	名称	「公害対策など生活環境の維持」に対する満足度						
		算出式・説明	自然や市民の生活を守るために、市が行っている「公害対策など生活環境の維持」の取組に対する評価を、市民意識調査の「市民満足度」により把握します。						
		実績値	24.8	24.8	24.8	25.8	25.8	29	
	指標2	名称	公害の苦情受付件数						
		算出式・説明	大気汚染や河川の水質についての定期的な調査や早期対策を講じることで市民生活の安心を高めることで、公害に関する苦情受付件数を減らします。						
		実績値	79	69	78	74	100		
	指標3	名称							
		算出式・説明							
		実績値							
	指標4	名称							
		算出式・説明							
		実績値							
達成率の平均値			77%	82%	77%	80%	71%	49%	

【市民意見】【13】

24年度		27年度		29年度	
満足度(%)	24.8%	満足度(%)	25.1%	満足度(%)	29%
満足度(平均ポイント)	-0.02	満足度(平均ポイント)	0.05	満足度(平均ポイント)	0.13
重要度(%)	80.9%	重要度(%)	80.8%	重要度(%)	78.6%
重要度(平均ポイント)	1.36	重要度(平均ポイント)	1.32	重要度(平均ポイント)	1.35

各年次の市民意識調査で、施策ごとの「満足、やや満足」「重要、やや重要」の合計値として算出しています。

【一次評価】

検証項目	施策の成果と課題	施策成果の目標達成状況【14】	<input checked="" type="checkbox"/> まだ未達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 目標を大きく上回る	
		意識調査での満足度【15】	<input type="checkbox"/> 平均を下回る <input type="checkbox"/> ほぼ平均 <input checked="" type="checkbox"/> 平均を上回る	
施策の成果と課題(取組成果や目標達成に向けた課題、成果向上・コスト削減策等)【16】		◇庁用車については、車両の老朽化に伴う買替え等に際して、環境にも配慮した車両を導入しています。 ◇大気汚染などの公害防止については、定期的に調査を行い、その状況を環境白書、市報、ホームページなどを通じて市民に公表しています。法改正や社会需要に即した調査を実施しています。また、光化学スモッグの原因物質の一つであるVOCについて、東京都と連携し事業者対策を進めています。 ◇PM2.5については、東京都による西東京市内での測定体制が整ったため、市では、平成28年度より成分分析を開始しました。分析結果を蓄積するとともに、発生原因や発生源について検討する必要があります。		
検証項目	今後の方針	施策の重要性の変化【17】	<input type="checkbox"/> 弱くなっている <input checked="" type="checkbox"/> 以前と同程度 <input type="checkbox"/> 強くなっている	
		意識調査での重要度【18】	<input type="checkbox"/> 平均を下回る <input type="checkbox"/> ほぼ平均 <input checked="" type="checkbox"/> 平均を上回る	
今後の方針(具体的な事業群や事務事業を示しながら)【19】		◇庁用車については、引き続き環境に配慮した車両の導入を進めます。 ◇大気汚染の防止については、PM2.5に関するデータの収集及び市報、ホームページによる公表を行います。また、東京都と連携して、VOC対策を引き続き進めます。 ◇PM2.5については、平成28年度より開始した成分分析の結果を蓄積していくとともに、発生原因や発生源について検討を進めます。 ◇市内における大気、水質、騒音、振動等のモニタリング調査については、時代の変化に対応するため、随時見直しを行います。		
総合評価	施策内容の方向性【20】	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 絞込み		
	施策実施コストの方向性【21】	<input type="checkbox"/> 重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 効率化		
	施策実施方針【22】	V	成果を維持しつつ、コストも現状を維持する施策領域	
説明【23】				
【一次評価後の事情変更等】				
説明【23】				
【行革本部評価】				
総合評価	施策内容の方向性【20】	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 絞込み		
	施策実施コストの方向性【21】	<input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 効率化		
	判断理由等【24】	生活環境の維持については、庁用車の買替え等に際しての環境配慮や、PM2.5の成分分析等に取り組んできました。市民意識調査結果では、重要度に大きな変化は見られませんが、満足度に上昇が見られるため、実施コストの抑制に努めるべきと判断しました。今後も、大気汚染等の公害防止では定期調査を行い、結果を公表し、PM2.5については、平成28年度から開始した成分分析結果を蓄積し、発生源や原因を検証する必要があります。また、低公害車の導入を継続するとともに、仮庁舎の整備に合わせて、庁用車の適正保有台数を検証することも必要です。		
施策実施方針【22】	VI	成果を維持しながら、コストを抑制する施策領域		

【施策内の事務事業貢献度判定】

環2-3 生活環境の維持

事業群	名称【25】	担当課【26】	概要【27】
1	低公害車の普及促進	管財課	庁用車の適正な管理と効率的な運用を図るとともに、地球温暖化対策の取組のひとつとして環境面に配慮した車両の導入を進めます。
	公害等対策事業の実施	環境保全課	大気汚染や水質汚濁、土壌汚染などの発生状況を早期に把握するため、定期的な計測を行っています。
事業の合計			

総コスト(千円) : 評価年度【28】	事務事業 の評価 (直近)【29】		26市の サービス 水準との 比較【30】	施策における位置づけ【31】	貢献度 【32】
	事業費	人件費			
0	0	0	改善・見直し (平成25年度)	中	B
24,770	13,968	10,802	継続実施 (平成28年度)	中	A
24,770	13,968	10,802			